

自己評価の基準：【A】 十分達成できた 【B】 おおむね達成できた

【C】 あまり達成できなかった 【D】 まったく達成できなかった

1 教育活動への取組	自己評価
<p><b>【学習指導】</b>  <b>【目標】</b> 「質の高い授業の創造」と「教科マネジメント」の充実を図る。  <b>【方策】</b>                      ① 生徒・教員間及び生徒間のやりとりを通して考えさせ、表現させる授業を実践する。                      ② 集団で学び、新たな気づきや発見のある授業場面を通して、自ら学びに向かう生徒を育てる。                      ③ 当該学年の教科チームとして生徒の成績推移や実態を把握し、それを踏まえた日常の補習や長期休業日中の講習を実施する。                      ④ 生徒による授業評価結果を教科として分析し、学校として生徒へ文書でフィードバックし、生徒と教員とでよりよい授業づくりを目指す。                      ⑤ 教科主任会での検討を踏まえ、土曜講習を組織的・計画的に実施し、基礎・基本の徹底及び発展・応用の充実を図る。                      ⑥ 5～6教科7科目型の大学入試センター試験及び4教科6科目型の国公立二次試験に対応できる教育課程を継続実施する。                      ⑦ 「課題・補習・面談」を通して基本的な学力の維持・向上を図る。</p> <p><b>【生活指導・健康づくり】</b>  <b>【目標】</b> 「生徒に寄り添い、生徒と向き合う指導」から自律した生徒を育成する。  <b>【方策】</b>                      ① 進学校としてけじめ・メリハリのある授業規律・生活規律を確立するため、全教職員で生活指導にあたる。</p>	<p><b>【学習指導】</b>                      質の高い授業を創造するために、                      ア 教員個々及び教科としての研究（通年）                      イ 管理職による授業観察と面談（年2回）                      ウ 校長が指名した3名の教員の授業参観と研究協議（11月）                      を実施した。また、定期考査問題の共通化を前進させた。【B】                      ① 授業における「やりとり」を通して考えさせる授業づくりは、概ね実践された。今後は、「知識を問う発問」から「考えさせる発問」をいかに設定するかが取組課題となる。                      ② 授業を契機として自ら学びに向かう生徒は多い。家庭学習時間が平日3時間以上の生徒割合は前年度と比較して2学年のみ増加（3年74%⇒64%、2年14%⇒16%、1年11%⇒9%）。                      ③ 教科チームとして教材の共有化や情報交換を進め、授業担当者による差異が出ないように努めた。生徒個別の成績データベースを全員で共有し、年2回の進学指導検討会及び夏季休業日前の拡大学年会で生徒情報の共有を図った。それに基づく補習等は各教科で実施。長期休業日中の講習も組織的に講座設定した。                      ④ 教科として授業評価結果の分析コメントを作成し、評価結果のデータとともに全校配布した。                      ⑤ 土曜講習は1, 2学年とも国語・数学・英語については発展及び基礎講座を設定した。                      ⑥ センター試験5教科以上の出願者は295名、93.9%、難関国公立4大学及び国公立医学部医学科二次試験の受験者は185名、57.8%であった。                      ⑦ 課題の提出について繰り返し指導するとともに、定期考査・小テストの実施後に基準に到達しない生徒へのきめ細かな補習を実施した。さらに担任による年4回の面談によって学習への意識を高める働きかけを行った。</p> <p><b>【生活指導・健康づくり】</b>                      あいさつ、時間管理、身だしなみ、授業規律などについて個々の教員からの声かけや投げかけなどを実施し、また学年集会を活用して自律的な生活の確立へ向けた働きかけを行った。今後も継続して教職員集団として更に一体感のある指導の確立が必要である。【B】                      ① チャイムと同時に授業開始など、当たり前</p>

- ② 全校集会・学年集会やホームルームを通して、望ましい学校生活について生徒に考えさせる指導をするとともに、家庭及びPTAとの連携を図る。
- ③ スクールカウンセラーを活用し、生徒の心のケアなど、教育相談機能の充実を図る。
- ④ 生活指導部、保健部、学年と経営企画室とが連携したタイムリーな環境整備を行う。(来校者の視点での環境整備)

**【進路指導】**

**【目標】**「現役での生徒の進路希望の実現」を果たす。

**【方策】**

- ① 学年集会、個人面談等を活用し、最後まであきらめさせない指導を継続する。
- ② データベース等により生徒情報を共有し、担任・教科担任・部活動顧問等があらゆる場面で生徒を励ます指導を行う。
- ③ 進路指導部と学年とが連携し、生徒の第一志望実現へ向けた進学指導対策を立て、現役合格を達成する。
- ④ 年2回の進学指導検討会後に、進路指導部・5教科主任会を開催し、具体的な学習指導対策を検討・実施する。
- ⑤ 実力テストの実施にあたって、作問レベルの事前確認、予想平均点の設定を行い、実施後の状況について全教職員で共有する。
- ⑥ 第3学年生徒の成績データに基づいたケース会議を年2回実施し、出願指導等で活用する。

**【特別活動】**

**【目標】**「文武両道」を奨励し、生徒の帰属意識を高める。

**【方策】**

- ① 新入生への部活動参加を奨励する。
- ② 体育大会、合唱祭、星陵祭を通して、全校生徒の成就感や達成感を高める。
- ③ 生徒会活動・委員会活動を支援し、生徒自身の自主的・自律的な活動を充実させる。
- ④ SSH事業を安全かつ円滑に実施し、生徒の高い満足度を得る。
- ⑤ グローバルリーダー育成海外派遣研修(ポスト

できている。今後も授業準備の事前徹底、鞆類を整理して机間通路の確保、机上整理など、より望ましい学習姿勢を全校で確立することが必要。

- ② ホームルームや学年・全校集会等を通して生徒に考えさせる取組を実施した。保護者会やPTA運営委員会でも協力を依頼し、一体感のある指導に努めた。
- ③ スクールカウンセラーによる面談や意識調査等を通して、教育相談機能を充実させた。
- ④ 学校見学会、学校説明会等、多くの来客がある場合の環境整備はもう一歩という場合もあった。

**【進路指導】**

現役進学率は65%であった。(前年度54%)高い進路希望を実現させていくために、今年度の受験結果の検証を進めて、次年度以降の指導へ生かしていく。今年度も生徒の成績データベースを基に、志望大学別のケース会議を実施し、3学年担任団と進路指導主任、教科担当者、管理職との目線合わせを行った。センター試験では、学年の半数が総合得点率80%に達するなど、好成績を修めた。【A】

- ① あらゆる場面を通して、あきらめさせない指導を貫いた。
- ② データベース化した既卒生及び在校生の情報を全教員で共有し、それぞれの立場で励ましの指導を行った。
- ③ 学年集会、進路講演会、出願検討会など、進路指導部と学年とが連携し、目線あわせを十分に行って指導にあたることができた。現役合格率は更なる向上を目指す。
- ④ 改善策の策定に向けて5教科主任会を開催し、授業改善や補習の実施など具体策を実行に移した。
- ⑤ 実力テストの作問レベルは事前に教科内で共通理解を図った。予想平均点・実際の平均点を比較し分析も行った。全教科の教条を全員で共有した。
- ⑥ 11月及び1月にケース会議を実施した。

**【特別活動】**

文武両道の伝統は確実に継承され、生徒の入学満足度も90%であった。【A】

- ① 担任等から部活動加入を奨励し多くの新入生が加入した。
- ② 学校行事への生徒肯定割合も86%と高く、目的は達成されている。(昨年度84%)
- ③ 生徒会活動や委員会活動は、顧問の支援の下でより活性化させることができた。生徒会による通信の発行、ペットボトルキャップの回収など、生徒たちの自主的・自律的活動が継続した。
- ④ SSH成果報告会では、生徒の自主探究活動の質

<p>ン・ニューヨーク研修)を新規に実施し、参加生徒の高い満足度を得る。</p> <p><b>【募集・広報活動】</b>  <b>【目標】</b>「入学者選抜における応募倍率の維持・向上」  <b>【方策】</b>  ① 学校見学会・説明会・授業公開等を通して、本校を理解した生徒・保護者に選んでいただく。  ② 生徒の活躍(学習、学校行事、部活動など)をタイムリーに学校ホームページへ掲載する。  ③ 各分掌が所管するホームページの内容をより自主的に更新・情報発信していく。  ④ 小学生とその保護者を対象とした学校説明会をより一層充実させる。</p> <p><b>【学校経営・組織体制】</b>  <b>【目標】</b>「迅速な情報共有と知恵の結集で改善を」  <b>【方策】</b>  ① 企画調整会議と分掌部会との双方向性を維持する。  ② NAS(校内ネットワーク)を有効活用して、迅速・確実な情報共有を行う。  ③ 学校経営計画に基づき、各分掌が組織目標の設定、中間総括、年度末総括を実施する。</p>	<p>の向上が確認できた。参加生徒の満足度も高かった。(生徒肯定割合96%)</p> <p>⑤ 新たな海外派遣研修も一定の成果をあげ、参加生徒の満足度も高かった。(生徒肯定割合100%)</p> <p><b>【募集・広報活動】</b>  推薦に基づく選抜の応募倍率は男子が3.45倍、女子が3.90倍と減少。学力検査に基づく選抜の応募倍率も男子が2.52倍、女子が2.23倍と減少した。(本校にとって逆風の制度改革であった)【B】  ① 各種活動を通して本校の教育理念・活動を紹介し、それに共感する中学生・保護者に選択していただくことができた。  ② 「日比谷生の活躍」欄を活用し、生徒の活躍をタイムリーに掲載した。  ③ 総務部において自主的な更新がより前進した。  ④ 8月に小学生とその保護者対象の説明会を実施し、参加人数も増加したうえ、好評であった。</p> <p><b>【学校経営・組織体制】</b>  情報は全員で共有することを大前提として、紙ベース、電子データ等で適宜閲覧できるようにした。【B】  ① 今年度は分掌部会で協議して意見聴取する案件は、なかった。企画調整会議の内容伝達は一部の分掌を除き円滑であった。  ② NASによる情報共有に加えて、TAIMS個人端末や成績処理ファイルFogosによる情報共有を継続させた。  ③ 各分掌の年間組織目標、中間総括、年度末総括は主任主導で実施した。</p>
<p>2 重点目標への取組</p>	<p>自己評価</p>
<p><b>【学習指導】</b>  <b>【目標】</b>生徒と教員とで質の高い授業づくり  <b>【方策】</b>  ① 授業研究と授業改善(個々の取組及び教科としての取組)の継続実施  ② 教務部が主体となり、生徒による授業評価結果を学校全体としてフィードバック  ③ 授業に関する校内研修の実施(授業の見せ合いの実施)  ④ 教科マネジメントの確立へ向け、授業内容・授業進度・考查問題の共通化をより一層前進させる。(保健、地学、地理歴史・公民の各科目)  <b>【数値目標】</b>学習指導に対する生徒肯定割合80%(昨年度76%)  授業の見せ合いの参加率100%(昨年度64%)</p>	<p><b>【学習指導】</b>  授業評価結果を学校としてフィードバックすることは継続できた。授業内容・授業進度の差異や定期考査問題の共通化など前進した。【B】  ① 個々の教員の取組に加えて、教科としての授業研究や改善を深めていくことが更に求められる。  ② 予定通り実施した。  ③ 新たな校内研修を導入し、授業の見せ合いの実施率が100%となった。研究協議も活発であった。  ④ 考査問題の共通化については、地理歴史・公民科で30~100%、地学で75%、保健で50%と前進した。今後、他教科・科目と同様の100%達成を目指す。  <b>【数値目標】</b>学習に対する生徒肯定割合75%と未達成。(昨年度76%)  授業の見せ合いの参加率100%(昨年度64%)</p>

<p><b>【生活指導・健康づくり】</b></p> <p><b>【目標】</b> 全教職員が一致して生徒と向き合う指導</p> <p><b>【方策】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 学年集会や全校集会を活用し、生徒の意識や自覚を高めるための全教職員による一致した指導の実践</li> <li>② 必要に応じてケース会議を開催し、心のケア等について迅速に情報共有するとともに、的確に対応する。</li> <li>③ 学校見学会・学校説明会・入学相談会など、来校者の視点に立って、前日までの校内点検を徹底し、整備を行う。</li> </ol> <p><b>【進路指導】</b></p> <p><b>【目標】</b> 生徒の希望進路の実現</p> <p><b>【方策】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 根拠となるデータに基づいた生徒への励ましの指導を実施</li> <li>② 生徒の高い志を堅持させ、第一志望を貫けるように支援する。</li> </ol> <p><b>【数値目標】</b> ( ) 内は前年度の人数、達成率</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 難関国立大学及び国公立医学部医学科の現役合格者 50人以上(43人、86%)</li> <li>② 難関3私立大学の現役合格者 200人以上(220人、110%)</li> <li>③ 国公立大学の現役合格者 100人以上(105人、105%)</li> <li>④ 大学入試センター試験(5教科)受験者数 270人以上(288人、107%)</li> <li>⑤ 大学入試センター試験5教科の総合得点率80%以上の延べ人数 130人以上(122人)</li> <li>⑥ 大学現役進学率 60%程度を維持(54%)</li> </ol> <p><b>【特別活動】</b></p> <p><b>【目標】</b> 文武両道を追求する生徒の育成</p> <p><b>【方策】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 部活動の加入奨励</li> <li>② 各行事における生徒会や実行委員会生徒の育成</li> <li>③ 全校集会等における生徒会役員及び委員会からの連絡場面の設定</li> <li>④ 行事準備時間と部活動時間との割り振りを適切に行い、効果的・効率的な運営を行う。</li> </ol> <p><b>【数値目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 部活動加入率95%以上(前年度95%)</li> <li>② 学校行事の充実度 生徒肯定割合85%以上(前年度84%)</li> </ol>	<p><b>【生活指導・健康づくり】</b></p> <p>時間管理や身だしなみ等について課題意識を共有して指導にあたった。教員からの適切な投げかけを通して、自律的な生活態度を育成していくことは今後も必要である。<b>【B】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 授業等において生徒への投げかけや声かけを「する・しない・できる・できない」についてまだ教員間の温度差がある。</li> <li>② 保健部会の中で必要な情報共有をして対応した。</li> <li>③ 生徒と教職員とで力を発揮して、更なる整備の徹底が必要である。</li> </ol> <p><b>【進路指導】</b></p> <p>難関国立4大学及び国公立医学部医学科の受験者数は186名と高い志望状況であった。東京大学の合格者数は全国の公立高校の中で3年連続1位の実績であった。<b>【A】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① ②データベースを活用して3学年生徒全員のケース会議を実施。高い志望を貫くことができるように支援した。</li> </ol> <p><b>【数値目標】</b>(3月28日現在)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 難関4国立大学(東京・東工・一橋・京都)及び国公立医学部医学科の現役合格者68人(達成率136%)</li> <li>② 難関3私立大学(慶応・早稲田・上智)の現役合格者286人(達成率143%)</li> <li>③ 国公立大学の現役合格者131人(達成率131%)</li> <li>④ 大学入試センター試験(5教科)受験者数295人(達成率109%)</li> <li>⑤ 大学入試センター試験5教科の総合得点率80%以上の延べ人数160人(達成率123%)</li> <li>⑥ 大学現役進学率は65%</li> </ol> <p><b>【特別活動】</b></p> <p>学習とともに三人行事、部活動、生徒会活動、委員会活動などに取り組む生徒がほとんどであった。<b>【A】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 年度当初の各機会において部活動加入を奨励。</li> <li>② 生徒会による対面式、部活動紹介のほか、各実行委員会生徒が主体的に活動した。</li> </ol> <p><b>【数値目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 部活動加入率95%と達成</li> <li>② 学校行事への生徒肯定割合86%と達成</li> </ol>
--	--

<p><b>【募集・広報活動】</b>  <b>【目標】</b> 本校を理解した生徒の獲得  <b>【方策】</b> 教職員と生徒が一体となった丁寧で効果的なPR活動の継続</p> <p><b>【学校経営・組織体制】</b>  <b>【目標】</b> PDCAマネジメントサイクルの実働化  <b>【方策】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 分掌部会における主任からの報告、資料回覧、TAIMS送信等により、企画調整会議の内容を確実に伝達する。</li> <li>② 意見聴取事項については、分掌主任が部会での検討結果を企画調整会議に報告する。</li> <li>③ 教職員の自己申告における目標設定が、学校経営計画及び分掌組織目標を踏まえたものとなるようにする。</li> <li>④ すべての校務分掌（7部署）が、学校経営計画に基づく年間組織目標を設定し、中間総括及び年度末総括を実施する。</li> </ol>	<p><b>【募集・広報活動】</b>  授業公開、学校見学会、学校説明会などを適宜適切に実施し、本校の教育理念や教育活動に共感する中学生・保護者に選択をしていただいた。入試制度の変更が影響し、応募倍率は下降した。【B】</p> <p><b>【学校経営・組織体制】</b>  学校経営計画に基づく各分掌のマネジメントサイクルが主任を中心に整備できた。【B】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 企画調整会議の内容伝達は、一部の分掌を除いて概ね円滑。</li> <li>② 今年度は該当事項なし。</li> <li>③ 引き続き、教職員の目標設定を検証可能なより具体的なものへとしていくことが必要。</li> <li>④ 予定通りに実施した。</li> </ol>
<p>3 次年度以降の課題</p>	<p>対応策</p>
<p><b>【教科マネジメントの確立及び高い進路希望の実現】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 教科チームとして授業内容・授業進度・定期考査問題の共通化をより一層進め、日比谷の教科マネジメントを確立させる。(地理歴史・公民科の各科目、保健、地学の定期考査問題共通化を更に前進)</li> <li>② 新たな大学入試制度を見据え、すべての授業内容を3学年の11月までに終了する指導体制を2年以内に確立する。(地理歴史・公民科)</li> <li>③ センター試験の結果を踏まえ、各教科・科目の指導の統一にとどまらず、教科を横断した授業・課題・講習等の在り方について検討し、成果へとつなげる。(強みを生かし、弱みを克服する戦略)</li> <li>④ 進路希望を果たせなかった生徒たちの思いを受け止め、励ましの根拠としてのデータを活用した進路指導を進め、全生徒の進路希望の実現を目指す。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 教科主任会での検討を重ね、教科会で率直な意見交換を深め、一歩ずつ前進させる。</li> <li>② 現在12月に授業内容を終了している科目について、指導計画・進度の見直しを検討し、2年後に実現する。</li> <li>③ センター試験における得点率80%を一つの指標として、教科・科目の強みを継続し、弱みを前進させる取組について更に検討を進める。</li> <li>④ 課題・補習・面談によるきめ細かい指導を継続し、生徒の意識を高くもたせる。3学年におけるデータベースを活用した年2回のケース会議を継続し、一人一人の希望の実現を支援する。</li> </ol>